

2021年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	法学部(法律学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業について（特に初年次のオンライン授業について） ・1年生で履修する専門科目について ・法学入門と法学入門演習について ・法曹コース（および法曹養成）について ・学部の入学者選抜、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学修成果などについて、各学部の3ポリシーとの関連や適切性についての意見聴取
今後の対応	<p>上記の学生の意見等をFDカリキュラム委員会および法律学科会議で共有し、オンライン授業や1年次専門科目につき議論した。</p> <p>また、ZOOMの強制ミュートの重要性につき、法律学科会議および法学部教授会で確認し、注意喚起を行った。</p> <p>また、学生へ必要な情報が伝わっていないケースがあることがわかったため、情報伝達の在り方や伝達情報の厳選への注意が必要であることが法律学科会議および法学部教授会で確認された。</p>
対応策の実施時期	本モニター制度の結果を受けて、2021年度中のFDカリキュラム委員会および法律学科会議および法学部教授会にて上記対応を行った。
学部／概要	法学部(国際政治学科)
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実践講座科目の単位修得における問題点 ・実践講座科目に対する満足度 ・英語力に応じてクラス分けをすることの是非
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・実践講座科目の履修に関する情報や必要単位数について2年次以降にも周知徹底する。 ・時間割編成のあり方について検討する。
対応策の実施時期	<p>学生への周知は2022年度より始める。</p> <p>時間割編成についても同年度より検討する。</p>
学部／概要	文学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部の3つのポリシーと教育目標について ・オンライン授業（ハイフレックス形式を含む）への対応について ・遠隔授業が多い中での人間関係の構築について
今後の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3つのポリシーと教育目標について、今後も文学部HPでの掲載を継続していく。 2. 課題に対するフィードバックが望ましいことは言うまでもないが、一方で学生がオンライン授業に慣れきって受け身の姿勢になっていることが浮き彫りになったものと考えられる。 教員への質問や対話を通じて、積極的な学びの姿勢を構築していくべきであることを伝えていく。 3～4. 授業の形態に適切に対応して学び続けることや、求められた成果を多様な形で作成・提出できることが大学生としての能力であり、社会人として必要なスキルにもつながることを学生に伝えていく。 5. 教員の対応を啓発していく必要がある。 6. これは対面授業だけの場合でも生じる事案であり、オンライン授業特有の問題ではない。 7～8. 大学の行動方針が基本的に対面授業であることを学生に周知し、それによって対応する。 9～10. ガイダンスやオリエンテーションの機会を利用してできることがあるかどうかを考える。また、寄せられた意見は新入生歓迎会等の開催計画の参考にする。 11. すでに学習支援システム利用法のピアサポートを実施している学科をモデルとして、「楽単講座」に陥らないように、単位登録までの過程を新入生に伝えていく方法を共有する。 12. 情報カフェテリアの存在を基礎ゼミで周知する。図書館の使い方についても、基礎ゼミで図書館ガイダンスを実施する等して周知する。 13. 学部事務のガイダンスでも奨学金についての説明はあるが、学科ガイダンスにおいても学生センター厚生課の存在を周知する。
対応策の実施時期	2022年1月26日（2021年度第9回文学部定例教授会）にて対応。
学部／概要	経済学部
モニタリングした内容	<p>(第1回目)、(第2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業について ・入門ゼミについて ・専門教育科目について ・1年次と2年次(以降)の教育内容について ・演習(ゼミナール)について ・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて ・経済学部の3つのポリシーについて知っているか ・経済学部の3つのポリシーが学生に浸透しているか
今後の対応	<p>(第1回目)</p> <p>今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、学習成果の可視化と分析と合わせて今後の改善に活かしていきます。</p> <p>(第2回目)</p> <p>今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、オンライン授業の改善に引き続き注力していきます。</p>
学部／概要	社会学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学部のカリキュラムについて ・オンライン授業について ・社会学部の3つのポリシーについて
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習における学習スキルの習得について、担当教員の懇談会等で十分に共有する。 ・視野形成科目や学科入門科目の履修のしかたについて、ガイダンス等で丁寧に説明する。 ・将来的にカリキュラムを見直す際には、コースのあり方についても検討する。 ・今後のオンライン授業の活用のしかたについて検討する。
学部／概要	経営学部
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部のポリシーについて／各ポリシーについて知っているか ・他学部の科目を履修したことがあるか。履修理由や履修後の感想 ・サティフィケート・プログラムについて知っているか ・カリキュラムについてどう思うか・要望など ・演習（ゼミナール）の制度および入ゼミ方法について ・オンライン授業について（オンデマンド・ハイフレックス等）
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学部のポリシーについては、より分かりやすい解説を加えた上で、一般により容易にみられるように対策を講じる。 ・また、サティフィケート・プログラム制度については、同制度の内容・特徴とメリットがより広く認知できるように周知方法を工夫する。
対応策の実施時期	今後検討する。

2021年度学生モニター制度実施報告

学部／概要	国際文化学部
モニタリングした内容	1. オンデマンド、ハイフレックス、リアルタイムオンライン、対面など異なる授業形態が学修にもたらした効果。 2. 外国語修得の到達目標および各科目のシラバスに明記した到達目標の認知度とそれが学修に与えた影響。 3. 国際文化学部での学びと関連する社会貢献や地域との連携活動に参加した経験の有無と関心。
今後の対応	1. 異なる授業形態が学修にもたらした効果に関して 2022年度、オンライン授業（多様なメディア）による単位修得上限数を60単位とする学則上の規程が再適用され対面授業が増える一方、感染症予防を目的とした教室定員抑制措置は継続され学生にとって物理的な教育環境の制約が大きくなる。 このことを踏まえ、学生モニターから指摘のあった施設設備の諸課題について各部署に確認をとり、改善に努める。 2. 「到達目標」の認知度とそれが学修に与えた影響に関して 外国語学修の到達目標と異なり、点数や資格では測れない各科目の到達目標の実質化のため、授業内容・課題との関連付けや、学生がより当該目標を意識できる書き方や見せ方の工夫など、対策を講じるよう努める。 3. 国際文化学部の学びと関連する社会貢献・地域との連携活動に関して 社会貢献、地域連携活動の実践は卒業後の青写真を描く一助ともなることから、学生の関心・経験を今後も継続的に把握し、学部のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを見直す際の検討材料とする。
学部／概要	人間環境学部
モニタリングした内容	①コロナ下の授業／大学生生活 ・授業方法（オンライン授業）・成績評価 ・学部の学習支援、学生生活全般について ②学部の授業・カリキュラム ・学部の3つのポリシーについて ・コース制、授業科目 ・初年次の必修・選択必修科目について（「人間環境学への招待」、「基礎演習」、スキルアップ科目） ・選択必修のフィールド系科目について（「人間環境セミナー」、「フィールドスタディ」、「キャリアチャレンジ」） ・研究会、研究会修了論文、コース修了論文、プログラム修了論文 ③その他 ・学部の雰囲気、多様な学生（留学生・SCOPE・RSPなど） ・国際化の取り組み（派遣留学、SA） ・学部の広報活動、社会連携について
今後の対応	・学生からは一度決めた実施形態（対面／オンライン）を急に変更しないで欲しいという声が聞かれた。これについてはすでに学部教授会で共有し注意喚起した。 ・学部のカリキュラムについては、新入生ガイダンスや『履修の手引き』の記載内容を工夫し、学部の3つのポリシーにもとづいてさらにわかりやすく学生に情報を提供できるよう努力する。 ・SCOPEおよびRSPについては、今後カリキュラムを点検し、さらに充実したプログラムとなるように機をとらえて改革を進める。 ・サーティフィケートプログラムについても同様に情報の周知を図りたい。
学部／概要	現代福祉学部
モニタリングした内容	・現代福祉学部のディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーについて ・入試制度・入学時の学力について ・カリキュラムについて ・科目履修・各種授業科目について ・卒業所要単位について ・大学・学部の留学制度について ・各種事務手続きについて ・多摩キャンパスの施設・設備、通学環境について ・その他
今後の対応	モニタリングで得られた意見や提案をもとに執行部会議・教務委員会や各領域間で問題点の共有や改善のための具体策について検討し、今後の講義運営やカリキュラム改編等に活かしていく。
対応策の実施時期	執行部会議・教務委員会での検討は定期的に行っており、それぞれの論点ごとに適切に対応し改善に向けて努めていく。
学部／概要	キャリアデザイン学部
モニタリングした内容	・2021年度春学期と秋学期の履修授業数 ・アルバイトやサークル ・予習や復習、レポートやテスト勉強 ・学修における大変感と充実・達成感 ・生活リズム ・友人関係 ・ゼミ選択・履修 ・学部のディプロマポリシー
今後の対応	より良い授業に向けて、日常的同僚性に根差したファカルティ・デヴェロップメント実践を継続する。そのさい、オンライン授業と対面授業のそれぞれの長所短所を踏まえたベストミックスも推進していく。また、学部の3つのポリシーについては、学生向けガイダンス等でその周知と理解を図ってきたい。
学部／概要	生命科学部
モニタリングした内容	・学部の3つのポリシーについて ・生命科学部のカリキュラム・ツリーおよびカリキュラムマップについて ・TA、ラーニング・サポーター制度について ・リメディアル教育（教養科目、プレースメントテスト、TOEIC-IPテストについて） ・SA、ERPについて ・情報教育（授業、貸与PC、大学の設備）について ・実験・実習科目について ・オンライン講義について ・研究室配属について
今後の対応	指摘事項について、専任教員間で情報を共有し、学科会議や高大連携委員会などで対応策を検討する。また、学生生活課にも連絡して、小金井学生委員会での議論を通じて改善を要望する。さらに、教養・専門教育連携委員会の場でも議論し、改善策を検討する。
対応策の実施時期	入学前の通信教育やプレースメントテスト、ラーニング・サポーターおよびTA制度等については、月2回ほど開催される学科会議や、年4回程度開催される高大連携委員会で検討する。また、英語教育をはじめとする教養教育に関しては、教養・専門教育連携委員会で検討する。

学部／概要	グローバル教養学部（GIS）
モニタリングした内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目について ・科目の選択について ・セレクションについて ・授業の質について ・Seminarについて ・留学について ・就職支援について ・3つのポリシーについて ・サティフィケートプログラムについて
今後の対応	<p>モニタリングで得られた意見は、学部教員全員で情報共有し、できる限り改善に活かします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 担当教員間でAcademic Skills Subjectsの内容に大きな差が生じないよう今後も留意します。 (2) セレクションの必要性について、今後も学生に周知し理解を求めます。 (3) 留学制度に関して、GISのホームページ、ソーシャルメディア(Facebookなど)を通じて派遣留学制度の情報共有も検討します。 (4) GISのホームページ、ソーシャルメディア(Facebookなど)を通じて、3つのポリシーを学生に周知すると共に、入学オリエンテーションなどでも説明を行い、GISでの学びに役立てるよう指導していきます。 (5) GIS生を対象とした就職説明会を継続し、国内外で働く卒業生との交流機会を設けられるよう検討します。
学部／概要	スポーツ健康学部
モニタリングした内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン授業について 2. 大学の感染症対策について 3. コロナ禍によって日常生活にどのような影響があったか？ 4. 語学授業について 5. 実習授業について 6. スポーツ健康学部のディプロマポリシーを知っているか？
今後の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン授業について いくつかの意見は、オンライン授業が学部ポリシーの実現を一部阻む可能性を示唆していた。オンライン授業を教育方法の一つとして継続する場合、学生の聴講状況をインタラクティブにモニターできる仕組みを工夫する、授業の質を担保するための学部独自の授業ガイドラインを作成する、受講する側に丁寧な事前ガイダンスを行うなどの対応が必要と考えられた。執行部を中心に今後検討をしていく。 2. 大学の感染症対策について 物理的な制約が、時に学部ポリシーの実現を阻む可能性が示唆された。学生が不安なく履修する上で一貫性のある感染症対策が不可欠である一方、学修成果を担保するためには、多様な授業形態や施設利用に各々適した必要十分な方策が必要と考えられた。執行部を中心に今後検討をしていく。 3. コロナ禍によって日常生活にどのような影響があったか？ パンデミックおよび大学の対応は学生の人間関係の醸成、精神生活に少なからず影響を及ぼしていることが明らかとなった。 学修支援のみならず精神衛生の保全、健全な学生生活の維持のために学生が抱える心身の困難を抽出する積極的取り組みが必要かもしれない。執行部を中心に今後検討をしていく。 4. 語学授業について パンデミック下において、授業がオンラインにて実施されてきた2年の間にクラス間の実施方法に差異が大きく、学生間での学びの質に影響を与えていることが明らかとなった。 本学部においては英語を2年間必修（第2外国語は必修科目ではない）とし、学力に応じたクラス編成を行うなど英語教育に力を注いでいるが、コロナ禍における実施形態や学生の満足状況について確認する仕組みが必要と考えられた。 今後は語学授業の進め方のガイドラインや質保証のための仕組みづくり、さらには諸語担当の学部専任教員の配置について検討することが必要かもしれない。執行部を中心に今後検討をしていく。 5. 実習授業について オンライン授業では対応困難な実習科目を多く要している点が本学部の大きな特徴であり、特に教員免許取得に必要な実技・指導実践の場において大きな困難が生じていた実態が明らかとなった。 一方、学びについて一定の評価を得た実践もあった。オンライン授業下で授業の質低下を回避するためには、これらをモデルケースとして情報を共有するなどの工夫が必要であろう。今後執行部を中心に対応を検討していく。 6. スポーツ健康学部のディプロマポリシーを知っているか？ 具体的なディプロマポリシーに対する認知度は低かったものの、学生たちがパンデミック下で感じた問題は、学部の3つのポリシーに何らかの形で密接にリンクしたものであった。すなわち学生がパンデミック下に意識・経験した課題は直接・間接的に学部ポリシーに紐づいており、ポリシーを文章として暗記していなくとも、その精神は非言語的に一定程度浸透し内面化していることが示唆された。したがって上記1～5に挙げたような課題への取り組みを継続することが、学部ポリシーの一層の実現につながると考えられた。今後執行部を中心に尽力していく。
学部／概要	市ヶ谷リベラルアーツセンター
モニタリングした内容	<ol style="list-style-type: none"> ①ILAC科目を登録する際に意識していた事柄や行った事柄について ②ILACのプロジェクトチームで試験的に作成したILAC科目のキーワード群（履修科目の検索タグ付け用）について（グループディスカッション） ③ILAC科目のカリキュラムツリー・カリキュラムマップの参照の有無 ④履修登録する際に必要なツールについて（グループディスカッション） ⑤1年生がILAC科目を履修登録する際のアドバイス
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ILACのプロジェクトチームの取り組みにフィードバックさせていく。とりわけ、カリキュラムツリーやカリキュラムマップについては改善を図っていく予定。 ・シラバスのあり方についてはILAC部局のみで対応できる事柄ではないので、全学的に取り組めるかどうか検討していきたいと考えている。
対応策の実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ILACのプロジェクトチームにおいて、2022年度以降に取り組んでいくこととなるが、取り組みには時間がかかるので、具体的な実施時期については明言できない。
学部／概要	教育開発支援機構
モニタリングした内容	<ol style="list-style-type: none"> ①ディプロマ・ポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> ・所属学部のディプロマ・ポリシーを知っているか ・授業を履修する際、ディプロマ・ポリシーを意識しているか ②全学的に開講しているプログラムについて <ul style="list-style-type: none"> ・成績優秀者の他学部科目履修制度について知ってるか ・「課題解決型フィールドワークfor SDGs」について知っているか ・情報科学分野（データサイエンス等）の学びについて知っているか ③コロナ禍の学びについて <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における授業形態（対面・オンライン等）が学びに及ぼした影響や課題について ・コロナ禍における学生同士や教員との関係構築について
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーの認知度、全学的開講しているプログラムの認知度、利用の意欲等については、機会を見つけて、全学にフィードバックしていきたい ・コロナ禍における授業、学生間や学生と教員との関係構築については、必要に応じて、ヒアリング結果やそこから得られる知見等を全学にフィードバックしていきたい